

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第49週 (12/4-12/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		49週	48週	47週	46週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県
		注意報	12/4-12/10	11/27-12/3	11/20-11/26	11/13-11/19	11/27-12/3
			49週	48週	47週	46週	48週
小児科	RSウイルス感染症		1	3	4	3	44
	咽頭結膜熱		4	7	4	2	91
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	51	46	44	53	437
	感染性胃腸炎	○	179	149	113	90	986
	水痘		6	14	12	8	85
	手足口病		21	23	28	19	158
	伝染性紅斑		0	0	3	0	5
	突発性発しん		8	4	4	10	50
	百日咳		0	0	0	0	1
	ヘルパンギーナ		0	1	4	0	11
	流行性耳下腺炎		4	4	4	6	21
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		64	57	49	23	678
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		0	2	5	5	25
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	1	3
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	結核	女性	30歳代	画像診断
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出	E型肝炎	男性	40歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出	つつが虫病	女性	30歳代	血清抗体の検出

・第49週は、結核8件(201)、E型肝炎1件(6)、つつが虫病1件(1)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第49週のコメント

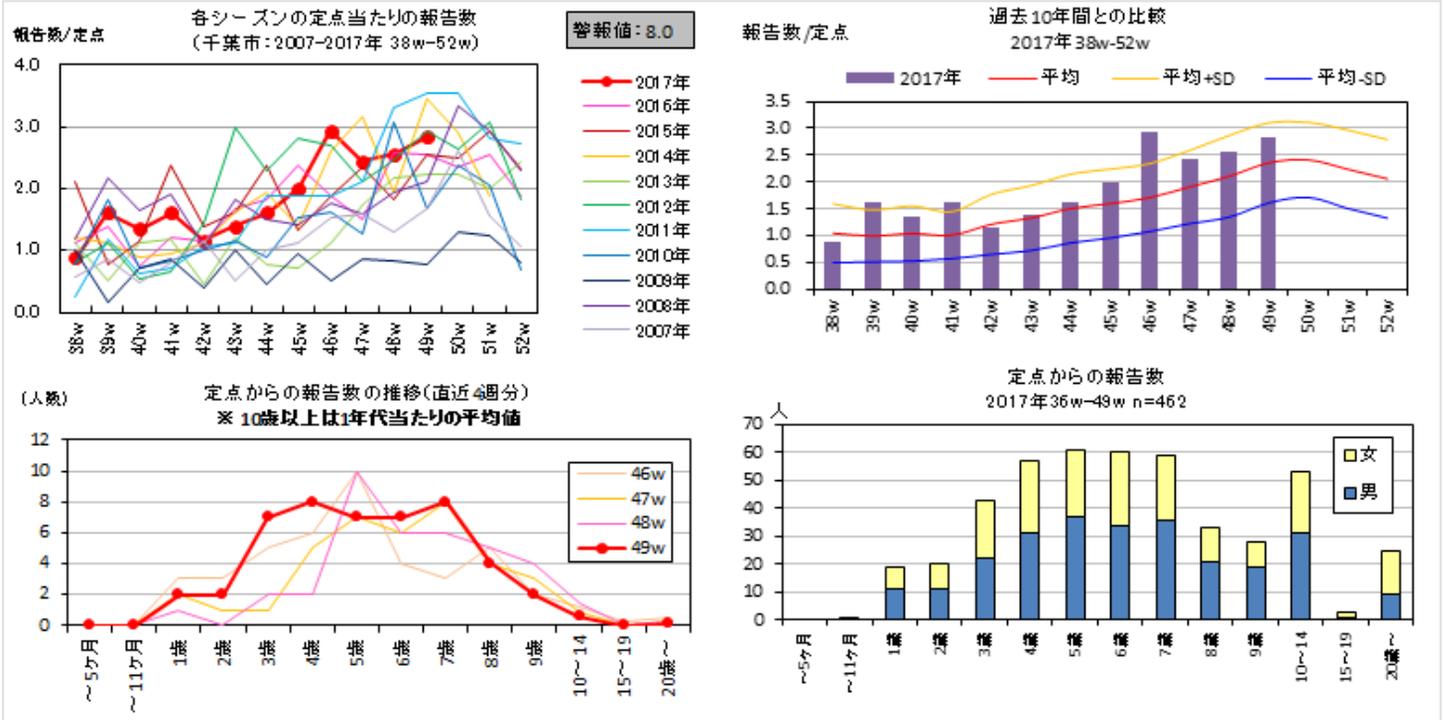
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し9.94となった。過去10年の同時期と比べると、少なめ。

■ トピック ■

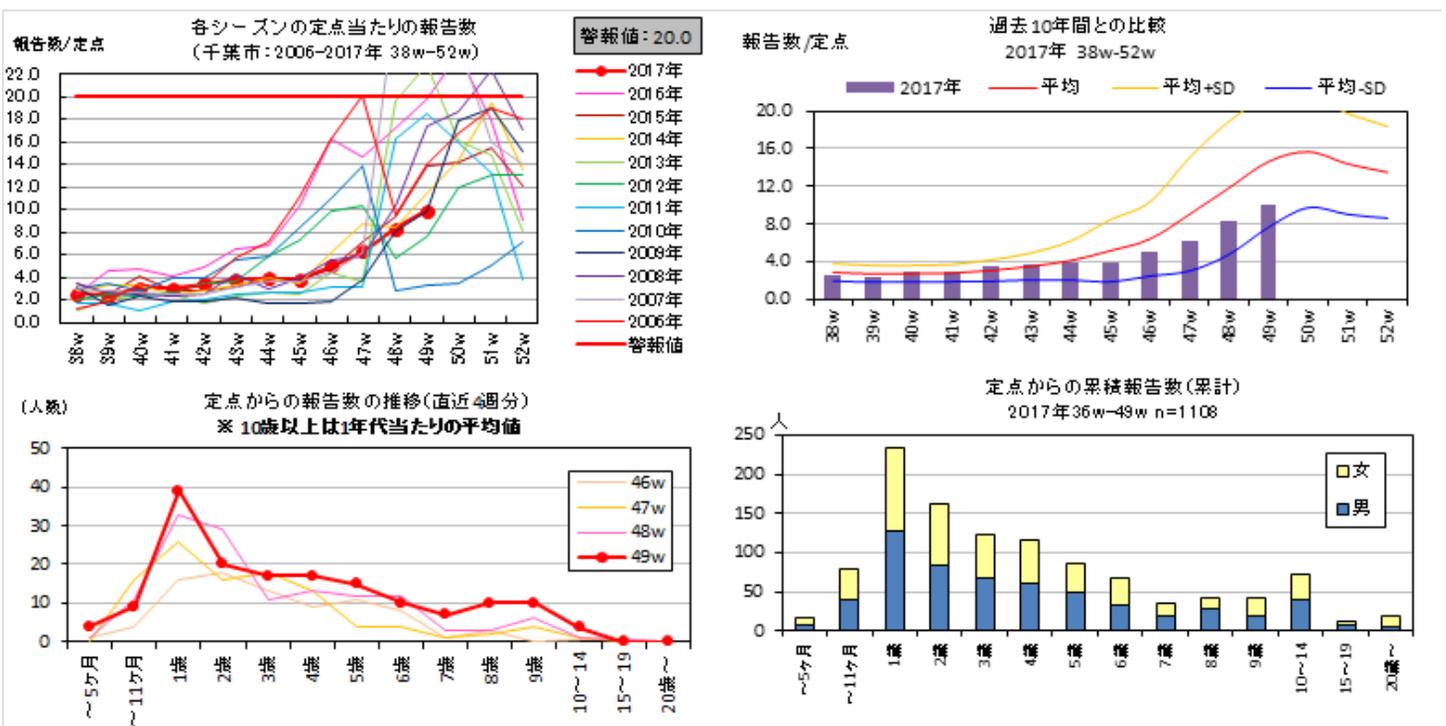
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第48週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では鳥取県、北海道、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第49週は前週より増加し2.83となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(4.75/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第49週までの累積報告数(n=462)によると、性別では男性が56.9%(263名)、女性が43.1%(199名)で、年齢階級別では5歳(13.2%:61名)、6歳(13.0%:60名)、7歳(12.8%:59名)の順に多くなっています。



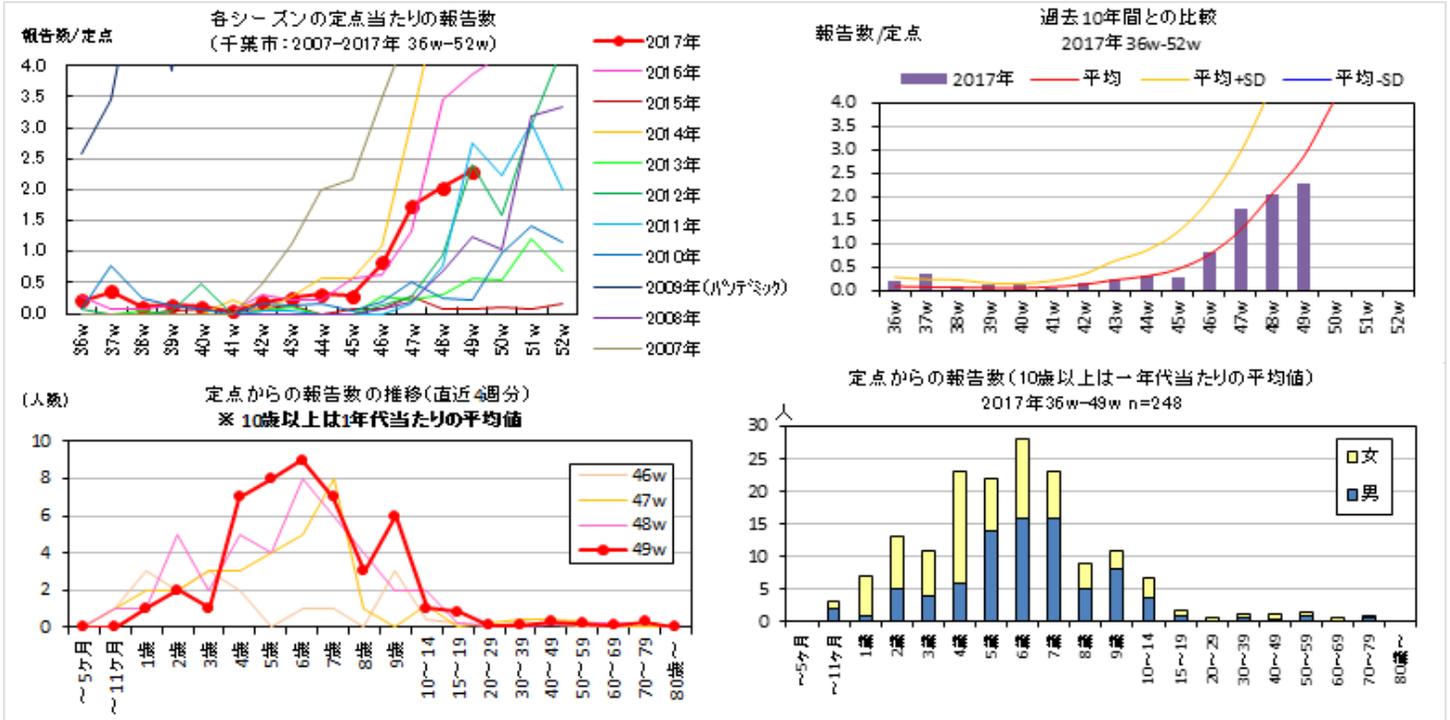
<感染性胃腸炎>

全国レベルの第48週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では愛媛県、大分県、埼玉県の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2017年第49週は前週より増加し9.94となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(17.0/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第49週までの累積報告数(n=1108)によると、性別では男性が53.3%(591名)、女性が46.7%(517名)で、年齢階級別では1歳(21.1%:234名)、2歳(14.7%:163名)、3歳(11.1%:123名)の順に多くなっています。



<インフルエンザ>

全国レベルの第48週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では長崎県、沖縄県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第49週は前週より若干増し2.29となりました。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(4.5/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第48週までの累積報告数(n=248)によると、性別では男性が50.4%(125名)、女性が49.6%(123名)で、年齢階級別では6歳(11.3%:28名)、4歳及び7歳(共に9.3%:23名)の順に多くなっています。



	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値	-	-	-	-	-	-	-
過去10年の同時期との比較	やや少なめ	少ない	少ない	やや多め	少ない	少ない	少ない
昨年の同時期との比較	少ない	少ない	少ない	少ない	多い	多い	少ない

